

<これまでの取り組み状況>

【多摩循環アグロフォレストリーモデルの構築】

- ・4つのモデル地区を設定し、10 haの森林での炭素貯留実証試験の開始・・・**200 t-CO₂/年の貯留**を実現できる基盤整備、及び方法論を確立
- ・圃場型ベンチャーポートの拡充（昆虫工場、植物育種施設、次世代養鶏場の新設）
- ・アグリフォレストリーモデルを整備し、民間企業との連携を拡充・・・**共同研究数：7件（3,300万円）**@R4、R5年度
- ・ハワイ大学とのグリーンカーボンに関する大学間協定締結（R4年3月）など、アグリフォレストリーモデルの海外展開に着手

【多摩バイオエコノミーモデルの構築】

- ・高付加価値バイオマス利用を実現する多摩バイオエコノミーモデル構築を目指した小金井モデル地区を設定
- ・「府中市における2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けた協働に関する地域協定」の下、新たな価値を創出する循環可能バイオマス資源を抽出（**木質系等の固形バイオマス：2,100 t/年、食品残渣等のウェット系バイオマス：4,900 t/年、汚泥：5,000 t/年**）
- ・循環可能なバイオマス資源利用による化成品創出やブルーカーボンに関する民間企業との連携・・・**共同研究数：8件（3,000万円）**
- ・本学が主導する「炭素循環型社会実現のためのバイオエコノミーイノベーション共創拠点（COI-NEXT）」へ参画する地域企業・研究機関を**45機関に拡充**し、都市型炭素貯留モデルに関する府中市、及び地域企業等との連携を強化

<今後の構想推進計画>

【多摩循環アグロフォレストリーモデルの構築】

- ・**カーボンクレジットを経済価値のターゲットとした全く新しい農林業を基盤とした炭素貯留ドリブン型モデル**を構築
- ・国内8拠点への水平展開により**1000 t-CO₂/年貯留** → 国際展開により**数万t-CO₂/年のCO₂貯留**の実現を目指す
- ・M府中モデル地区とFM津久井モデル地区における農林畜産業の循環システム構築
- ・ハワイ大学に加えて、豪クイーンズランド大学及び豪民間企業とのグリーン・ブルーカーボンに関する連携強化（MoU締結）、**構築モデルの環太平洋地域への展開を構想**

【多摩バイオエコノミーモデルの構築】

- ・地域の木質・草本・食品残渣資源の活用プロセスで排出される**固体残渣の炭素貯留、化成品合成および窒素やリンの再資源化**するための基盤を整備し、**炭素貯留と窒素・リン資源の肥料活用を実証**
- ・海洋研究開発機構（JAMSTEC）と連携して、ブルーカーボンの利活用に関するバイオエコノミー創出を推進し、アグロフォレストリーモデルと連動した環太平洋地域への展開を構想
- ・バイオエコノミーモデルから排出される炭素をアグロフォレストリーモデルで貯留し、後方で再資源化した窒素やリンを前者で肥料として活用する**両モデルの循環の実証（図1）**を目指す。

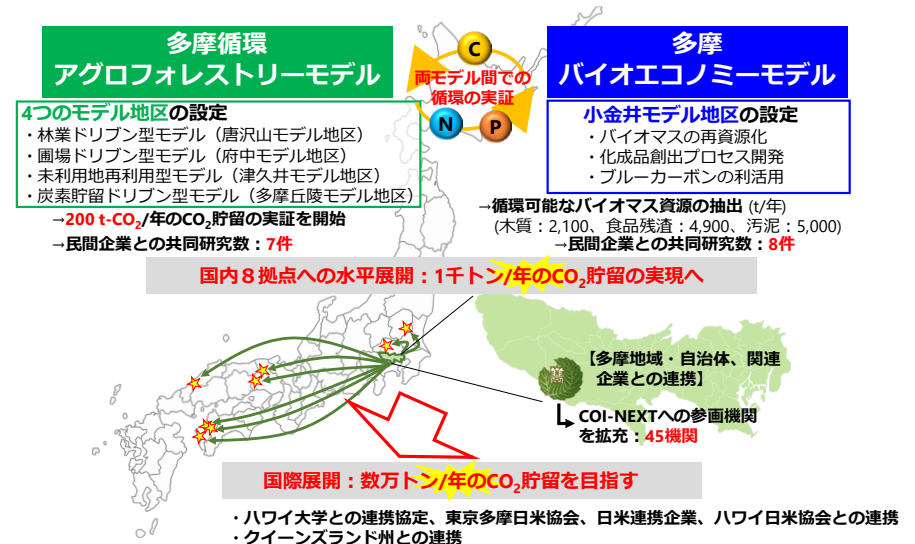


図1 多摩循環アグロフォレストリーモデルと多摩バイオエコノミーモデルのモデル間循環の実証